

校友会福島支部だより 第二号

発行 芝浦工業大学 校友会福島支部

事務局 喜多方市山都町中石打場3263

アドレス yamato.wanabe@nifty.ne.jp

3年ぶりの支部総会開催



子加藤善次郎
様の会長に出席
いただきました。
定時総会

去る5月27日、令和5年度支部総会を郡山ビューホテルアネックスで開催。会員十名が参加、大学より満重信之理事と校友会から

参加者からは、過去2年間実施した勧誘活動についての質問があり、結果の報告と今後も活動を続けることを、樋口支部長より説明がありました。また大学からは、新しいキャンパスの現状や技術者育成の現状、就職状況などの説明がなされ、大学、校友会のお二人からは当支部の活動についても貴重なアドバイスを頂きました。

福島支部から全国総会に8人出席

2023年度の全国総会が、去る本年六月十日(土)に東京のグランドニッコー東京台場にて開催されました。2022年度事業報告としては校友会本部・事務

局が豊洲キャンパスの有本史郎記念校友会会館に移転したこと、箱根駅伝では関東学生連合のチームメンバーで出場した橋本さんが活躍したこと、定期総会では、2022年度の事業報告と会計報告、監査報告が承認され、続いて2023年度の事業計画が承認可決されたことが報告されました。



全国総会議事進行状況

震災後の業績を評価された濱田英晴氏

懇親会では、濱田英晴氏(昭和45年機械工学科卒)が福島支部3代目支部長として、東日本大震災後の4年間、会員の安否を気遣いながら、当支部発展のために尽くされたことが認められ、功労賞を受賞しました。



濱田元支部長を囲んで

会員の皆様の「今日このごろ」。

第二回目は全国総会と豊洲キャンパス見学に参加された3人の方々から感想を書いていただきました。先ずは服部庄一(昭和51年土木工学科卒)さんから



総会で
前列野田さん、服部さん
後列 渡邊さん



シバウラキッズパーク

私もこの歳(七一歳)になると東京に行く機会が無いので参加を決めました。前日は、前支部長濱田さんの全国表彰の前祝いを兼ねて参加者8名での楽しい食事会、当日の午前中は、豊洲キャンパスを富山支部の皆さんと一緒に見学しました。最後に、開放された一階のエリアに行くと、近隣住民、子供や犬などが喫茶室やキッズパークで遊んでいて、私達の頃の工業大学のイメージとは、かけ離れて見えました。東京での楽しい時間は、あっという間の二日間でしたが、今後、福島支部の結束と会員拡大にみんな頑張って行きたいです。

次は和田聡史さん(平成六年建築学科卒)から



樋口支部長、橋本さん
和田さん、渡部さん



建築学科の製図教室

私の校友会活動といえば、支部総会や交流会、県内での研修旅行への参加等でしたが、全国総会への参加は今回が初めてでした。大学院を卒業し地元福島で就職してからは、大学とはすっかり疎遠になってしまい、大学のキャンパスに足を運ぶのは実に二

十五年振りかと思えます。新しい建築学部の製図室やカフェはおしゃれで羨ましい限りです。案内してくれた現役の建築学部の学生さん(女子)もおしゃれな感じでした。最後に楽しい旅行を企画してくれた皆さんありがとうございます。

最後に橋本剣一さん(平成十五年建築工学科卒)から



樋口支部長、橋本さん

野の枠を超えた研究ができそうです。4年ぶりの支部交流会で、参加した全国総会では、他支部の諸先輩方からお話を伺い、会員募集や、交流活動などについて貴重な意見をいただきました。今回の活動に参加して会員としての意義を改めて感じました。

母校からの情報

学生プロジェクト、勿来で活躍

会員の皆さまは、母校の後輩学生達が地元の方々と連携し、企画運営し、福島の町おこしのお手伝いをしていくことをご存じでしょうか。支部としては、後輩が活動している内容を是非知りたいと思い「NPO 法人勿来まちづくりサポートセンター」理事長館敬様にお会いしてきました。そして、先輩から後輩に引継がれた学生活動を知り「笑顔のまちなこそ復興プロジェクト」代表の五十嵐悠仁様にお話しを



阿出川シアター

伺いましたので、ご紹介します。プロジェクトメンバーは総勢七十名超。植田班、環境班、農業班、発酵調味料の事業化班、自転車産業活性化班、防災班、集落復興支援事業班の合計七つの班で構成されています。各班は、地元住民(商店街・企業)と連携し、避難住民と勿来地区の住民のコミュニティ形成

活動やまち歩き活動、復興の様子を掲載したマップの作成などを通じて、勿来地区の活性化につなげています。この活動を知り、学生達の行動力とそのパワーに驚き、福島の復興の為に頑張っている姿に感動と感謝の念を覚えます。校友会福島支部として、この活動を是非支えていきたいと考えています。この夏には、「勿来の関こどもトレイル」や「なつくる夏祭り」など小名浜火花火大会」も企画。この続きは、次回もお伝えします。



学園祭にて

先輩を訪ねて シリーズ2回目に登場して頂く 先輩は、内ヶ崎智賢(うちがさきともよし)様です。いつも見守って頂いています。――まず最初に大学入学時のことを教えてください。



内ヶ崎智賢様

私は昭和37年に芝浦工大電気工学科に入学しました。その当時の大学は、長方形の箱のような形で、古ぼけた建物でした。戦後の復旧が緒に就いたところで、山手線の車両も木造のものが走っていた頃です。経済活動は活発化してきましたが、大学に進む人は少なく、「入れて良かった」と古びた校舎を見つめながら安堵した記憶が残っています。

――電気工学科を志望したのはなぜですか。

高校時代、将来の明確な目標はありませんでしたが、地元で新設された発電所に興味を持ち、そこへの就職を目指しました。しかし、大卒は数年に一度の採用しかなく、タイミンが合わず、結局、機械設備の建設をやっている会社に入社しました。

――お勤めになった会社のお仕事の状況を教えてください。

昭和41年の入社後は国内発電所の建設工事に携わり、昭和45年頃からは海外工事にも行くようになり、昭和多岐の仕事を通して多くの企業の人達と出会い、多くの経験を出来たことは、私にとつての宝です。特に海外での仕事は、旅行と違い長期間に渡りそこで生活をしますので、民族による生活様式や考え方が全く違うことを感じました。

――後輩にひと言お願いします。

国際化の時代です。チャンスがあれば、殻に閉じこもらず、県外、海外など外に出て、多くの人と出会い、様々な経験をしてもらいたいと思います。

――インタビューを終えて

お話しを聞きながら、経験は、人を成長させることを感じるお話しでした。有難うございました。

芝浦びと 川柳コーナー(笑い)今回は「校友会」です

校友会 懐かしくもあり 会いたくはなし 懐かし

い人たちと会いたい感じもするけど、その勇気が無い

案内を 送ってみても なしつぶて そうなんですよ

なかなか 新しく入らない

編集後記 川柳、奮ってメールで応募ください。ご意見などあれば事務局まで、メールでお聞かせください。